

## 平成 17 年第 1 回学術情報ネットワーク運営・連携本部会議議事概要

1. 日時 平成 17 年 6 月 9 日（木） 10：30～13：00

2. 場所 国立情報学研究所会議室

3. 議事概要

(1) 新規委員紹介及び前回からの経過報告

○坂内本部長から新規構成員等の紹介があった。

- ・ 前回ネットワーク作業部会長に指名された安達開発・事業部長が構成員となった。
- ・ 筑波大学の板野情報メディアセンター長を新規構成員とすることが提案され了承された。
- ・ 運営・連携本部の作業部会と連携して NII 内部で作業を行う開発推進室を設置したことが報告され、そのネットワークグループの構成員が紹介された。

○本部長から前回からの経過等について、次のとおり報告があった。

- ・ 文科省情報課から平成 18 年度概算要求に向けた、文書が各大学法人等に流された。
- ・ 文科省の学術審議会のコンピュータ・ネットワークワーキンググループで中間まとめの作成を進めているが、その中で「最先端学術情報基盤」の構築が明記され、ネットワークに関しては、幹線の 40Gbps 整備の開始、1～数 Gbps への通信速度の確保、認証基盤の構築が明記される予定である。
- ・ ペタフロップス級のスーパーコンピュータの整備が国家的プロジェクトとして進められることになっている。
- ・ 現状の学術情報ネットワークの分析を行ったが、スーパーSINET の 10Gbps の 30 ノードについては、2.4G を実質的に超えているところが 10 ノードあると考えられた。2～3 年後の研究の進展を考慮し、ピーク値が現状の 2～3 倍を目指す整備が必要であり、10 ノード中の数ノードは 20Gbps 超が必要となることが想定され、40Gbps も現在の実態や今後のあるべき姿を反映した Steady な目標であると思われる。また、SINET については、40Gbps の整備や教育研究の進展のためには、1～数 Gbps に底上げする方向で検討する必要がある。

(2) 学術情報ネットワークに対する意見・要望等の選考について

○安達部長から資料 2-1 に基づき選考作業の経過報告が行われ、続いて、鈴木ネットワーク課長から選考結果案の詳細について、資料 2-2、資料 2-3、資料 2-4 に基づき、説明された。

○SINET ノードの 1 Gbps 化について、利用状況と要望を踏まえ 18 ノードを 1 Gbps に増速

することとし、残った5ノードはノード機関や接続機関等と調整を図り、要望があるところは、平成18年4月以降の整備として、利用状況が整ったところで可能な限り対応することで、了承された。

○要望のあった3グループの選考については、宇宙・天文等グループについて、代替案と当初要望との比較資料を作成し、各委員に再度確認をすることとなった。高エネルギー・核融合、その他の研究分野関係グループについては、以下を選考することが確認された。

①高エネルギー・核融合

- ・ 東京大学－神岡宇宙素粒子施設間 MPLS-VPN 接続のスーパーSINET ノード設置
- ・ 日本原子力研究所のスーパーSINET ノード設置 (2.4Gbps 接続)

②その他の研究分野関係

- ・ 宇宙航空研究開発機構総合技術研究本部のスーパーSINET ノード設置
- ・ SPRING8 のスーパーSINET ノードの設置
- ・ 東京大学と秋葉原研究拠点間接続のスーパーSINET ノード設置

(3) 認証部会報告

○岡部認証作業部会長から以下のとおり報告があった。

- ・ 高エネルギー加速器機構の川端先生を構成員とした。
- ・ 平成18年概算要求について、7大学の情報基盤センターとNIIで「大学間連携のための全国共同電子認証基盤構築事業」として、そろえた形で要求することとなった。
- ・ 平成17年度事業計画について、大学間認証基盤の前提となる学内認証基盤を構築するための学内状況、国内外の技術動向、国内先行事例(GPKI、LGPKI)等の調査等の実施を検討している。これを基に、試行システムを開発し、7大学センター関係者で試行する。また、NIIでは、WTCAの試行等を実施する。

(4) 作業部会の今後の進め方

- ・ 坂内本部長から、国際連携について、認証関連でのInternet2、TransPac2、APAN等との連携やTEIN2での欧州アジア網連携のスタンス等の課題が多いとの説明があり、詳細な議論は次回にすることとなった。

(5) 連携本部の利用について

- ・ 貝田課長から、連携本部室の利用が可能になり、自由に利用して欲しいが、TV会議システムについては、企画調整課で事前予約をして欲しいとの紹介があった。

(6) その他

- CSI がどういう方向にあるかを研究者や利用者が理解しておく必要があり、イメージ作りと意識あわせが必要ではないかとの意見があり、新しいスーパーSINET 推進協議会を開催し、その中でも、それぞれの研究分野の中でどう活かすかなどのお願いをすることにしたいとの説明があった。
- 2～3年前の NSF の時にはタウンミーティングを多く行っている。色々な学会等でのキャラバンのようなものも必要ではないかとの意見があり、6月24日に総合情報処理センター協議会で、坂内所長がCSIの構築に関する講演を行う予定となっていることの紹介があった。
- CSIの大きなイメージは示されているが、具体的な研究者レベルでの環境作りの議論が必要ではないかとの意見があり、今年は、ビジョンからアクションへの第1年目であり、それぞれにマイルストーンを定めて、漠然としている中で進んできているが、2～3月当初に比べるとそれぞれのアクションはかなり具体的になってきているとの説明があった。
- 筑波学園都市の中には、他省庁にまたがる研究機関が存在しているが、これまでの状況では、大学以外の機関との連携という意味で疎遠というような気がするので、これを機会に連携を密にして欲しいとの意見があり、JGN2やITBL等とは、目指すところも類似なものもあるので、WinWinをキーワードに連携をし、研究という側面からのリソースを分野・機関を越えて共有できるものに近づけるため、特徴のあるネットワークを繋ぎ会ってCSIとして、大らかな連携で進めていく方向としていきたいとの説明があった。

以上